

更衣室の忘れ物を減らす方法

How to reduce the things left behind in the changing room

岡本陸音 林航生 中野陸

Okamoto Rikuto, Hayashi Koki, Nakano Riku

大阪府立天王寺高等学校 文理学科

Humanities and Science course, Osaka Prefectural Tennoji high school

Abstract: We felt a lot of things left behind in the changing room, so we started researching how to reduce them. I installed a naked Pooh stuffed animal and its clothes near the entrance of the changing room. The intention is to make you aware of what you have left behind by objectively showing the state of what you have left behind.

1. 序論

大阪府立天王寺高校（以下、本校）は、部活動加入率が非常に高く、そのうち運動部が占める割合が大きい。そのため生徒が更衣室を使用する機会が多く、更衣室における忘れ物も非常に多くなっている。忘れ物置き場には常に大量の忘れ物が散乱しているのが現状である。本研究では、このような忘れ物を減らすため、忘れ物を抑止すると考えられる方法を複数実験し、効果的な方法を発見すること及び、更衣室における忘れ物の発生の原因を明らかにすることを目的とした。

2. 方法

実験期間（2020年10月27日～2021年1月13日）中、部活動終了後に男子更衣室に落ちている忘れ物を、シャツ、ズボン、タオル、上着、体育館シューズ、その他、のカテゴリに分けて集計した。

【実験1：コントロール】何もしていない状態の忘れ物の数を調べるため、10月27日～30日の期間は何も仕掛けなかった。

【実験2：ポスターの設置】11月9日～14日は「忘れ物ありませんか。」と、「服タオル 忘れて気付く 大切さ」と書いたポスターを更衣室内の壁に間隔をあけつつ、どこを見ても視界に入るように貼ることで、忘れ物の注意喚起を行った（図1）。

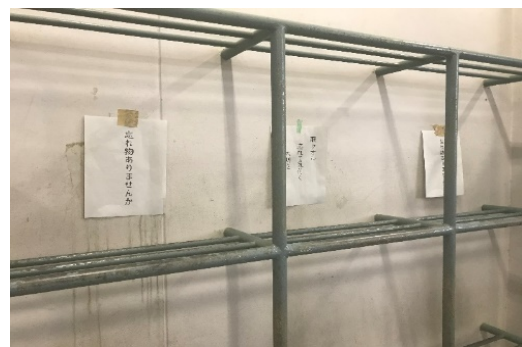


図1 実験2ポスターの設置

【実験3：ぬいぐるみの設置】11月17日～19日、24日、25日は服を脱がしたプーさんのぬいぐるみとその服を、更衣室の出入り口に設置した。忘れ物をしている状態を客観的に見せることで、自分の忘れ物に気付かせることをねらいとした。



図2 実験3ぬいぐるみの設置

【実験4：仕切りの設置】 1月6日～8日、12日、13日は更衣室の棚を段ボールで仕切り、パーソナルスペースを作って、他の人の荷物と混同しないようにし、自分の持ち物を自分で認識させることで忘れ物を防止することをねらいとした。



図3 実験4仕切りの設置

3. 結果

実験期間中、各実験で得られたデータを次の表にまとめた。なお、表1～表4の表記は主に忘れ物の多かった、シャツ、インナー、体操服の上は「シャツ」、ズボン、スパッツ、体操服の下は「ズボン」、タオル類は「タオル」、ジャージ、アウター、ウインドブレーカーは「上着」、体育館シューズは「体シュー」と表した。少なかったが時折見られた忘れ物については、「その他」とし、以上の6項目に分類し、データを比較した。

表1 (実験1) コントロール

実験1	シャツ	ズボン	タオル	上着	体シュー	その他
10月27日	2	2	1	0	0	パンツ1 水筒1
10月28日	1	0	1	0	1	筆箱1
10月29日	3	3	0	0	1	柔道着1
10月30日	2	2	0	1	1	
平均	2	1.75	0.5	0.25	0.75	1

表2 (実験2) ポスターの設置

実験2	シャツ	ズボン	タオル	上着	体シュー	その他
11月9日	2	2	2	0	0	ハンカチ1 柔道着1
11月10日	1	1	0	0	1	水筒1 ベルト
11月11日	0	0	1	0	0	
11月13日	2	0	0	1	0	
11月14日	1	0	0	1	1	弁当袋1
平均	1.2	0.6	0.6	0.4	0.4	1.2

表3 (実験3) ぬいぐるみの設置

実験3	シャツ	ズボン	タオル	上着	体シュー	その他
11月17日	4	1	1	1	1	外靴2 水筒1 ベルト1 靴下1
11月18日	1	2	0	1	0	
11月19日	4	0	0	1	0	
11月24日	3	0	0	0	2	靴下1
11月25日	3	0	0	0	0	靴下1 手提げ袋1
平均	3	0.6	0.2	0.6	0.6	1.6

表4 (実験4) 仕切りの設置

実験4	シャツ	ズボン	タオル	上着	体シュー	その他
1月6日	3	0	1	0	1	ハンカチ1 帽子1
1月7日	0	0	0	0	0	水筒1
1月8日	0	0	0	0	0	脛あて1
1月12日	0	0	1	0	0	
1月13日	0	0	0	0	1	靴下1
平均	0.6	0	0.4	0	0.4	1

4. 考察

実験2と実験4では忘れ物が減ったことがわかる。実験2で減った要因としては、着替えている時や、更衣室から出る際に自然と視界に入り、忘れ物を意識するようになったためだと考えられる。実験4で減った要因として、他者と自分の空間が分けられ他人と荷物が混ざらなくなったことにより、自分の持ち物を認識しやすくなり、忘れ物の防止につながったと考えられる。しかし、実験3では忘れ物は減らなかった。私たちはプーさんの服を脱がせて出入口に置いておくことで、プーさんが服を着るのを忘れていないかと気付かせる「強制発想」を試みたのだが、仕掛けとしてはインパクトが弱く、意図が伝わりにくかったことと、実験2・4と比べて視界に入る機会が少なく、「強制発想」に至らなかったことが原因となり、期待していた結果が得られなかったのだと考える。その点、実験2と実験4では、無意識のうちに忘れ物を意識させることができおり、これこそが「強制発想」であると思われる。

取り組みを行ったにも関わらず実験1から3において上着の忘れ物が増えている要因としては、気温が低下したことによる上着の着用率の増加が考えられる。一方、実験4は1月に行ったため、実

験 1 から 3 の時期と比較して非常に気温の低い時期であったことから、上着を忘れることが起こりにくくなったと考えられる。

実験 4 は仮説に合致する結果となったが、今回は仕切りに使った段ボールが棚の高さの半分であったり、棚の下の穴がある部分を閉じなかったりと、完全に個人の空間を作ることはできていなかった。そのため、服やタオルが床に落ちてしまい、それに気付かず帰ってしまったと思われる忘れ物があった。上下左右をきちんと仕切ることができればより効果が高いと考えられる。

結論として、実験 4 の結果が特に忘れ物が減少していることから、自分の荷物がどれであるのか、ということを視覚的にはっきりさせることが、忘れ物防止に最も効果的であると考えられる。

参考文献

- [1] 「仕掛け」で問題解決へと人をいざなう 大阪大学
https://www.osaka-u.ac.jp/ja/news/storyz/special_issue/research_topics_n175/201703_special_issue03 2020 年 9 月検索
- [2] 松村真宏:仕掛学概論—人々の人々による人々のための仕掛学—, 人工知能学会誌, 28 卷 4 号, pp. 584-589, (2013)